

Title	昭和二十八年度春期史學科見學旅行記
Sub Title	
Author	志水, 正司(Shimizu, Masaji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1954
Jtitle	史学 Vol.27, No.4 (1954. 11) ,p.109(607)- 110(608)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19541100-0109

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

力消長の問題に就て興味ある研究成果を披瀝してをる。今日我國に於て世界的史觀が要求せられてをるが、實際問題として中間にまたがる西亞の歴史研究に従事するもの、本邦に於て寥々たることは、西洋と東洋とをつなぐ綜合的史觀の樹立企圖を妨ぐること大なるものがある。本研究は、著者が多年に互る研鑽の成果であつて、なほ今後の研究に俟つべき部分もあるも、東西の文獻、殊にアラビア語の資料を驅使して試みたる著者の學殖と卓越せる獨自の見解は東西交渉史の研究の上に大いなる示唆と貢獻とを與ふるものがある。よつ著者は文學博士の稱號を受ける資格あるものと認める。

昭和二十八年九月三十日

主 査 委 員

慶應義塾大學 東洋史 擔 當 ドクトル・エス・
文學部教授 民族學 レットル

松 本 信 廣

慶應義塾大學 東洋史 擔 當 文學博士
文學部講師

和 田 清

慶應義塾大學 史學概論 擔 當 文學博士
文學部教授 西洋史 史學史 西洋史

間 崎 万 里

彙 報

昭和二十八年度春期史學科見學旅行記

七月三日午前九時三十分、低い雲行を氣遣いながら、金澤文庫驛前に集合。伊木、淺子兩先生以下、江坂氏を加えて總參加者數三十二名。途中貝塚の所在などを語りつつ、急いで稱名寺山門を潜る。すぐ左手の白聖の建物が現在の金澤文庫である。析から關靖先生日本學士院賞受賞記念金澤文庫印展が催されており、正印第一類二種・第二類二種・第三類八種に分類され、偽印・模印等を展示していた。

關先生にはこの日態々お出でを戴き、當文庫について御説明の勞をとつて下さつた。即ち、金澤文庫は北條義時の孫實時によつて創められ、その後顯時、貞顯（金澤氏を稱す）、貞將と四代に亘つて繼承され、藏書もいよいよ充實したのであつたが、元弘三年北條氏滅亡後は、文庫も次第に衰退して、藏書も少からず散佚したが、實時の遠慮から之を金澤のような幽靜の地に建て、いたので、今日まで多くの珍籍を傳存することが出來たとその沿革を述べられ、更に稱名寺と傳えられた古書の紙背から約五千通を越える古文書が発見せられ、當文庫研究に新分野が開かれたことに言

及され、その書籍の貸借消息文から「文庫公開考」を述べられ、文庫印はその貸出にあつて捺印されたのであらうと説かれた。

さて晝食の後、二階の陣列室を見學。主なものを挙げれば、

一、十一面觀音立像。もと稱名寺塔頭海岸尼寺の本尊。檜材寄木造白毫玉眼嵌入、鎌倉末期の作。

一、清涼寺式釋迦如來像。榿材寄木造白毫嵌入彫眼。所謂三國傳來の像を模したもので、清涼寺↓西大寺↓極樂寺↓稱名寺の關係に於いて模造されたものと考えられる。

一、銅造愛染明王像。工藝的な作品といふべきもの、永仁五年二月の銘がある。

一、北條實時・顯時・金澤貞顯・貞將畫像。絹本着色。特に實時のそれは、簡潔にして筆意の鋭い描線の底に、精神的な深さすら感ぜしめる。

一、十二神將畫像。絹本着色、一尊一幅で十二幅という他に類例の少ないもの。

一、稱名寺伽藍古圖。紙本墨書。元享三年當寺の住僧本如房湛審が結界の作法を行うに當つて描いたもの、當寺盛期のさまが窺われる。

一、金澤貞顯書寫圓覺經。紙本墨書。正慶二年三月父北條顯時の三十三回忌の供養のため、顯時の遺札を漉返して料紙とし、この經を書寫したもの。

一、文選集註。今多く傳えられているものは原本三十卷に註を加えて六十卷としたものであるが、これは更に珍しい註を加えて百二十卷としたもの。

一、明儒願文集。鎌倉時代のもので藤原資實、菅原爲長等の諷諭願文を集めたもの。

湛審の筆。

この地片假名古今集斷簡、連歌懷紙二綴などみるべきもの多く、又日蓮上人筆授決圓多羅義集一牒は珍しいものといふべきであらう。

歸途實時の墓に參詣しようとしたが、折からの雨で顯時・貞顯の兩塔婆に止めた。解散が存外に早かつたので、恰度塾の秋草文壺も出陳した鎌倉近代美術館の日本古陶磁展を見學した。(志水正司誌)

昭和二十八年秋期關西方面見學旅行記

金曜日頃から少し下り坂だつた天氣も十一日(日曜)には晴れ上り、先發二名を朝送り、一同はその夜七時半、急行明星にて西下の途についた。一行は間崎先生を始め、淺子、清水、河北の四先生。學生の數も七〇人近い史學科始つて以來の多人數。明くれば十二日(月)八時廿分、一同寢不足でやゝ疲れの色をあらわし丹波市驛へ降り立つた。たゞちに宿舍に入り小憩の後、一同は天